



創作人形作家・高橋まゆみさん

千曲川が近くを流れる長野県飯山市。その近郊は農村の原風景を醸し出す。「縁があつて長野市から嫁ぎ、都会では見られない農村の老人や子供の素朴さに心を奪われたんです」。まさに風土に根差した、じいちゃん、ばあちゃん、子供の仄仄とした姿を独自の創作人形で見事に表現する創作人形作家の高橋まゆみさんを訪ねた。人形との関わりを「たまたま入った手芸店で先生らしい人が女性達に人形作りの手解きをしている場に出会った」のが始まりと運命的出会いを語る。1983年に日本創作人形学院通信教育で基本を学び、試行錯誤の末、独自の世界を築く。人形の材料は粘土と針金、キルト芯で形を作る。表情に温かみと質感を出す縮緬ちりめんを使用する。

彼女の作品展は2003年から7年間、全国95カ所で開催され、180万人を魅了した。多くの賞にも輝き、2010年、飯山市に「高橋まゆみ人形館」が誕生。約1000体の人形がテーマごとに展示され、郷愁と感動を呼んでいる。

(写真・文 樋口健二)